民報
あばしり
NO.1335
10月3日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四三－四四五八
F 四三－四四五七

9月議会　令和2年度決算審査特別委員会　反対討論

続く財政の硬直化

令和2年度決算審査特別委員会が17日～22日まで行われ、日本共産党議員団は、それぞれ分担して審査にあたりました。

28日の本会議では、一般会計と国民健康保険、網走港整備、介護保険、後期高齢者医療の4特別会計について認定できないと、村椿議員が反対討論を行いました。

反対討論　一般会計

地方債残高320億円

令和2年度は新型コロナ対策によりあらゆる事業に影響を受ける中、国の臨時交付金を活用し、様々な分野への給付金・支援金などの支給を行った。また、住宅リフォーム助成制度、子ども医療費無料化など評価できる事業があった。

しかし、過去の過大な公共事業推進により、地方債は320億円あり、財政状況は硬直化している。

また、職員の時間外勤務が過労死ラインと言われる月80時間以上もあるなど、総体として認定できない。

国民健康保険特別会計

資格証発行28件も

国保では、窓口10割負担の資格証が28件発行されていること。網走港整備特別会計は、約10億の赤字を抱え、第二の能取漁港になりかねないとして、認定しませんでした。

介護保険特別会計は、要介護認定を受けても低所得者はサービスが十分受けられない。後期高齢者医療特別会計は、高齢者を囲い込む制度であり認定しませんでした。

追加の補正予算案が可決

宿泊業支援金

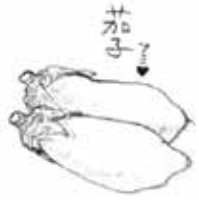
28日の総務経済委員会で、コロナの影響の大きい宿泊業への支援など、総額5940万円の補正予算案が提案されました。

「宿泊事業継続支援金給付事業」は、今年の4月～9月で前年または前々年度に比べ宿泊者数が50％以上減少している事業者に対して、1室1万円の支援金を給付するものです。

本会議では、全会一致で補正予算案が成立しました。

市の財政状況

	令和２年度
地方債残高　①	320 億 2 千万
債務負担（長期）②	22 億
基金　③	34 億 2 千万
①＋②－③	308 億
網走港赤字額　④	10 億 2 千万
能取漁港赤字額　⑤	1 億 8 千万
①＋②－③＋④＋⑤	320 億



松浦さとし奮戦メモ！

気候に関する日本共産党の「2030戦略」というパンフレットが出版されました。戦略をつくるにあたり、半年にわたって学者・専門家から意見・提言を受けて作られました。内容は大きく5つの柱からなっています。

『①気候危機とよぶべき非常事態…CO2削減への思い切った緊急行動が求められている。②「口先だけ」の自公政権…4つの問題点。③日本共産党の提案…省エネ・再エネで30年度までに50～60％削減。④脱炭素、省エネ・再エネををすすめる社会システムの大改革を。⑤脱炭素と貧困・格差是正を2本柱にした経済・社会改革で、持続可能な成長を』というものです。

今、日本の若者をはじめ世界の若者が気候変動について、大きな関心を寄せています。先のドイツの総選挙でも気候変動の問題が大きな争点となりましたが、日本共産党は、今度の総選挙で気候変動の問題を大きな争点にしようと提案しています。

私も、しっかり学習して多くの有権者に気候危機についても訴え、比例は日本共産党へと支持を広げたいと思っています。

村ちゃんが駆ける

先日、海沿いを車で走っていると50～60羽ぐらいのムクドリの群れが見られました。群れで飛ぶ様子はぶつかることなく、見事でした。秋が進み、家の周りではドングリ、山ブドウ、コクワ、クルミ、栗などが目につきます。

共産党の「2030戦略」では、日本のCO2の排出量は、発電所で39％、鉄鋼、セメントなどの5つの産業で25％と全体の6割以上を占めます。だから、この大規模事業所の脱炭素化が決定的に重要です。

もう一つは省エネです。省エネは3～4年で投資した省エネ費用が回収でき、その後は節減効果が続きます。省エネは「がまん」や「重荷」ではなく、家計は負担減となるのです。

住宅の断熱・省エネ化に補助金を出す。断熱化は地域の建設業などに仕事と雇用を生み出します。

実りの多い秋をこれからも迎えるためにも、今の環境を子ども達に引き継いでいきたい。総選挙で脱炭素社会に舵を切る政府を実現するために頑張ります。

流氷

安倍、菅首相と2代続いての政権投げ出し、その検証もせずコロナ対応もそっちのけで自民党内の権力闘争政権交代では政治は変わらない。真に国民の暮らしと命を守るには政権交代が必要だ!!▼走るには良い季節となった。浜辺では、秋鮭を狙って竿が林立、3連休の初日だった。季節の移ろいの早さに驚く。私のにわか野菜作りも早3年目、その道の師匠に乞い、兄に聞く。これでも農家育ちで、毎日麦飯でおかずは野菜秋のおやつはカボチャに芋だった。何も知らずに過ごして来て野菜づくりの大変さを知る。兄に「水不足だ」と言われ毎日の水汲みで鍛えられた。春の気候は異常で40日以上も雨が降らなかった。水不足の野菜達が心配で毎朝畑へ通う。黒大豆は寒さで発芽せず、種を二度も蒔き直す。大事に育てた甲斐あって、たわわに実を付けた。野菜作りは子育てと同じ、優しく慈しみ育てる。野菜作りの失敗は取り戻せる『経験の蓄積が大事』と、我が師匠は語る▼天都山の空は高く、青く木々は早くも紅葉している。街路樹のナナカマドの実は真っ赤に色づいた。その実の陰から冬将軍が顔を覗かせている。

アスリート爺